

コンセントバー 取扱説明書

取り付け、使用（操作・保守・点検）の前に必ずこの取扱説明書をお読みの上、正しくお使いください。
（この取扱説明書は必ず保管してください）

施工上の注意事項

警告

- 定格電流、定格電圧を超えた条件下で施工しないでください。
⇒発熱して焼損や火災の原因となります。
- 電源ケーブルは、器具に表示された定格以上のものを使用してください。より線を使用する場合は、適用圧着端子を用いて端子に接続してください。
⇒発熱して焼損や火災の原因となります。
- 電源ケーブルの被覆をはぐ場合は、心線を切らないでください。
⇒発熱して焼損や火災の原因となります。
- 端子ネジは、確実に締め付けてください。また、輸送などで端子ネジが緩む場合がありますので、必ず増し締めを行ってください。
⇒締め付けが緩いと発熱して焼損や火災の原因となります。

注意

- 水のかかる場所、高温、低温、多湿、粉塵の多い場所、振動や衝撃を受ける場所、腐食性ガスやオイルミストの発生する場所に施工しないでください。
⇒発熱して発煙や発火の原因となります。
- コンセントバーの接続部を中途半端に差し込んだ状態で施工しないでください。必ずロック状態で施工してください。
⇒感電の原因となります。
- 連結部分は特に、過度の力が加わらないよう取り扱いに注意して施工してください。
⇒接続部等が破損し、感電や発煙、発火の原因となります。
- 必ず全ての取り付け穴をネジにて固定してください。
⇒接続部等が破損し、感電や発煙、発火の原因となります。また、落下による器具の破損やケガの原因となります。
- 接地（アース）は確実に施工してください。
⇒感電の原因となります。

注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

使用上の注意事項

警告

- 負荷は、定格容量以下としてください。
⇒容量を超えた使用は、焼損や火災の原因となります。
- 使用電圧はAC100V±10%の範囲としてください。
⇒正常に動作しなくなり、焼損や火災の原因となります。
- 分解、改造は絶対に行わないでください。
⇒感電や焼損、火災の原因となります。
- 通電中に電源接続部のカバーを絶対に開けないでください。
⇒感電の原因となります。
- 電源ケーブルをたばねた状態で使用しないでください。
⇒発熱して焼損や火災の原因となります。
- 自動的にブレーカが作動し、回路が遮断された場合は、原因を取り除いてからハンドルを「ON」にしてください。
⇒焼損や火災の原因となります。
- 異常（発煙、臭い、煙など）がありましたら直ちにブレーカを「切」にして施工業者または電気工事業者へ連絡してください。
⇒そのまま放置しますと焼損や火災になる恐れがあります。

注意

- 水のかかる場所、高温、低温、多湿、粉塵の多い場所、振動や衝撃を受ける場所、腐食性ガスやオイルミストの発生する場所で使用しないでください。
⇒感電や発煙、発火の原因となります。
- 外郭カバーなどが割れた状態では使用しないでください。
⇒感電や発煙、発火の原因となります。
- 濡れた手でさわらないでください。
⇒感電の原因となります。
- 電源ケーブルを無理に曲げたり、ねじったりしないでください。また、電源ケーブルを機器やラックなどに挟まないでください。
⇒ケーブル内部の電線が切れて、焼損や発火の原因となります。
- 電源ケーブルを熱いものに近づけたり、加熱しないでください。
⇒被覆が溶けて感電や火傷する恐れがあります。
- 電源ケーブルを動かすついたり消えたりする場合、また電源ケーブルが部分的に熱い場合は、心線が断線していますので、使用を禁止してください。
⇒そのまま使用しますと焼損や発火の原因となります。
- 電源ケーブルがビニルキャブタイプや丸形コード（VCTF）の場合、電源ケーブルをステップル等で固定しないでください。
⇒心線が断線し、焼損や発火の原因となります。
- 検刃の曲がったプラグは使用しないでください。
⇒発熱して発煙や発火の原因となります。
- プラグを中途半端に差し込んだ状態で使用しないでください。必ずロック状態で使用してください。
⇒感電や発煙、発火の原因となります。
- プラグの抜き差しが極端に弱くなったものは使用しないでください。
⇒発熱して発煙や発火の原因となります。
- プラグを抜く時は、必ずプラグを持ってまっすぐ抜いてください。
⇒内部の電線が切れて焼損や発火の原因となります。
- プラグを長期間差したままにしないでください。ときどきコンセントやプラグの刃と刃の間を掃除してください。
⇒ホコリや汚れが付いたまま放置しますと、発煙や発火の原因となります。
- 洗剤や殺虫剤をかけないでください。
⇒発煙や発火の原因となります。
- 必ず接地（アース）工事が行われている電源コンセントに接続してください。
⇒感電の原因となります。
- ブレーカは遮断用のため「ON」・「OFF」スイッチとして使用しないでください。（安全ブレーカ付コンセントバーに限る）
⇒過負荷または短絡時に作動しないなどの故障の原因となり、焼損や火災の原因となります。
- 安全にご使用いただくため、定期的な点検を施工業者または電気工事業者へ依頼されることをお奨めします。

注意 に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

使用環境条件

- 使用周囲温度：-5～40℃（但し、24時間の平均値が35℃をこえないものとする）
- 使用周囲湿度：20～85%RH（但し、氷結、結露のないものとする）
- 使用場所
 - 住宅、事務所などの屋内で使用し、屋側・屋外では使用しないでください。
 - 異常な振動及び衝撃を受ける場所、水気のある場所では使用しないでください。
 - 雰囲気中に次のいずれも存在しない場所で使用してください。
 - 水滴
 - 過度の油蒸気
 - 過度の塵埃
 - 過度の塩分
 - 腐食性物質

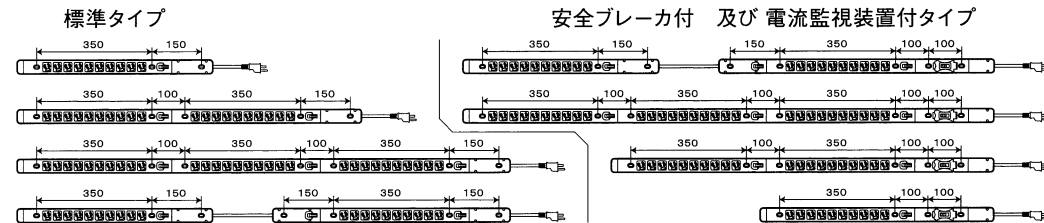
注意

コンセントバーは、情報ラック等の機器に固定して使用することを目的として開発された製品ですので、床上や床下等で固定しないで使用しますと思わぬ事故の原因となりますのでご注意ください。

コンセントバーの特長

- 外郭は、衝撃に強く、燃えにくい難燃性樹脂を使用しています。
- プラグ受口部は、熱に強い二重構造となっています。
- プラグ受口は、抜け止め接地タイプですので、差し込まれたプラグが容易に抜ける心配がありません。
- 基本的には、電源接続用コネクタ、コンセントバー本体、防塵カバーから構成されている10コ口のものですが、本体を追加すれば20コ口、30コ口にすることが出来る分割連結方式になっております。また、延長用アダプターを使用すれば、2個のコンセントバーをコードでつなぐことも出来ます。
- 取り付け穴のピッチは、どのような組み合わせを行っても50mmの倍数になるようになっておりますので、増設等が容易に行うことが出来ます。

※取り付け穴ピッチ



施工方法

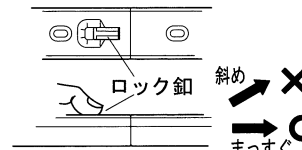
※施工上の注意事項及び下記施工方法を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。

●ユニット相互の接続

接続する各ユニットは、弊社コンセントバーシリーズの同じ定格電流のものを使用してください。
※定格違いのユニット相互は、接続できませんのでご注意ください。

注意

- 各ユニット相互を接続するときは、ロック釦が確実にかみ合するまで挿入してください。
⇒挿入が不完全な状態で使用しますと発熱し、発煙や発火の原因となります。
- 各ユニット相互を外すときは、ロック釦を押しながままっすぐ引き抜いてください。
⇒斜めに引き抜くと連結部が破損する恐れがあります。

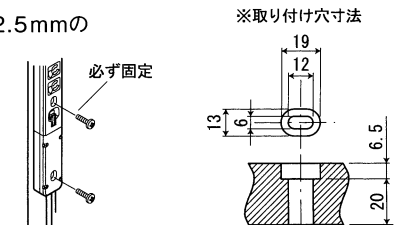


●コンセントバーの固定

コンセントバーの固定には、ネジ頭部の直径が9.5mm～12.5mmのM4又はM5のネジを使用してください。
※ネジ頭部の直径が9.5mmに満たない場合は、直径9.5mm～12.5mmの平座金を使用し、固定してください。

注意

- 適用するネジ以外で固定しないで下さい。
⇒器具がネジから脱落し、状況によっては思わぬ事故の原因となります。
- 必ず全ての取り付け穴をネジにて固定してください。
⇒接続部等が破損し、感電や発煙、発火の原因となります。また、落下による器具の破損やケガの原因となります。



●電線の接続

※分電盤（分岐ブレーカ）に直接つながっている電源ケーブルを施工する場合は、電気工事士の資格が必要です。

・適用電線

- (1) ビニルキャブタイヤ丸形コード (VCTF)15Aタイプ: 2.0mm²
 (2) 600Vビニル絶縁ビニルキャブタイヤケーブル (VCT) ...15Aタイプ: 2.0mm² 及び 3.5mm²
 20Aタイプ: 3.5mm² 及び 5.5mm²
 (3) 600Vビニル絶縁ビニルシースケーブル (VVF)15Aタイプ: φ1.6mm及び φ2mm
 20Aタイプ: φ2mm

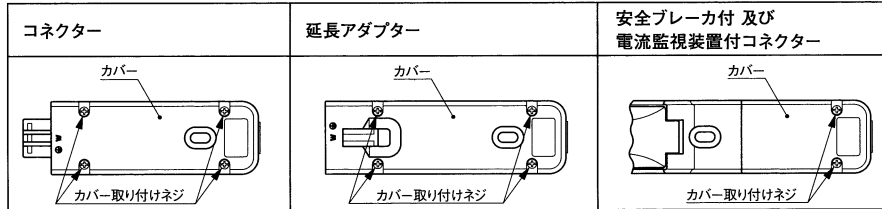
・適用圧着端子

※VCTF及びVCTを接続する場合は、必ず丸形圧着端子を使用してください。

- (1) 2.0mm²...R2-4
 (2) 3.5mm²...R3.5-4 又は R5.5-4
 (3) 5.5mm²...R5.5-4

・端子台への接続

- (1) 電線接続部のカバー取り付けネジを緩め、カバーを外してください。



- (2) 電線を下記加工寸法図に従い線剥きをしてください。

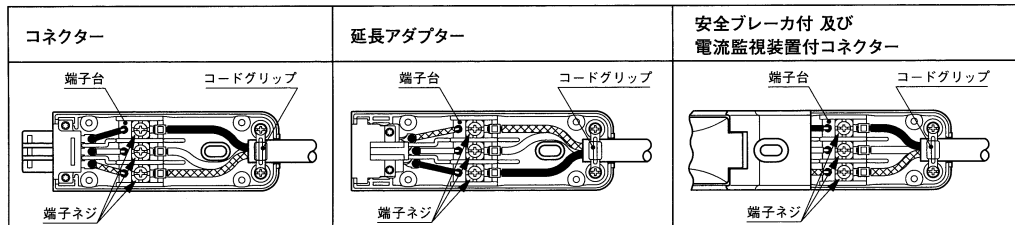
※VCTF及びVCTの場合は、丸形圧着端子を専用工具にてカシメてください。

	コネクタ 及び 延長アダプター	安全ブレーカ付 及び 電流監視装置付コネクタ	
より線 (VCT) (VCTF)	<p>電圧側極 接地側極(W) 接地極(⊕)</p> <p>*印の付いた寸法は2mm²の場合の寸法です。 3.5mm²は7mm、5.5mm²は8mmで線剥きをしてください</p>	<p>電圧側極 接地側極(W) 接地極(⊕)</p> <p>*印の付いた寸法は2mm²の場合の寸法です。 3.5mm²は7mm、5.5mm²は8mmで線剥きをしてください</p>	<p>圧着端子カシメ時の注意</p>
単線 (VVF)	<p>電圧側極 接地側極(W) 接地極(⊕)</p>	<p>電圧側極 接地側極(W) 接地極(⊕)</p>	

- (3) 電線と端子台の各極性を合わせ、1.1~1.3N・m (11~13kgf・cm) の締め付けトルクにて確実に接続してください。



- (4) ケーブルの外皮をコードグリップにて適度に締め付けてください。



- (5) カバーを被せてカバー取り付けネジを締め付けてください。

⚠注意

- ・接続作業は、電源ケーブルが通電状態でないことを確認してから行ってください。

⇒感電の原因となります。

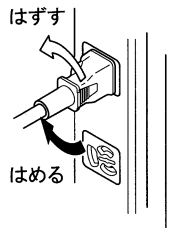
使用方法

※使用上の注意事項及び下記使用方法を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

●プラグの接続

Ⓜ Ⓜ のプラグが使用できます。

- (1) プラグを差し込みます。
 (2) プラグを右に回すと抜け止めになり、簡単に外れなくなります。
 (3) 外すときは、プラグを左に回して引き抜いてください。



●負荷の接続

コンセントバーに接続される負荷は、器具に表示された定格容量以下としてください。

15Aタイプ	20Aタイプ
各コンセント1個につき15A以下 コンセントバー全体で合計15A以下 (合計1500W以下)	各コンセント1個につき15A以下 コンセントバー全体で合計20A以下 (合計2000W以下)

※コンセントバーを連結して20個口、30個口にした場合でも、接続する負荷の合計は上記の値以下としてください。

●電流監視装置の動作確認 (電流監視装置付コネクタに限る)

- ・コンセントバーに電気を供給すると電流値表示部が「00.0」を表示します。万が一表示されない場合は、電源をもう一度入れなおしてください。なおも表示されないときは、不具合を生じている可能性がありますので代理店またはお近くの営業所までご連絡ください。

※負荷が接続されていない状態で「00.0」「-00.0」や「00.1」「-00.1」などと繰り返し表示される場合がありますが、環境条件等によって測定の実差が生じるための現象ですので異常ではありません。

- ・負荷機器のプラグをコンセントバーに挿し込み、負荷機器側の主電源を「ON」にすると負荷の電流値が表示されます。



主な仕様

【コンセントバー本体】

	定格15Aタイプ	定格20Aタイプ
適合法規	電気用品安全法 (特定電気用品)	
定 格	15A. 125V. AC (負荷合計1500Wまで)	20A. 125V. AC 【各コンセント1個につき15A、合計20Aまで】 (負荷合計2000Wまで)
極 数	2極 (接地極付)	

【コネクタ 及び 延長アダプター】

	定格15Aタイプ	定格20Aタイプ
適合法規	電気用品安全法 (特定電気用品)	
定 格	15A. 125V. AC	20A. 125V. AC
極 数	2極 (接地極付)	
端 子 方 式	角座金付ネジ端子	

【コード短絡保護用瞬時遮断機能付安全ブレーカ】 (安全ブレーカ付のものに限る)

	15A安全ブレーカ	20A安全ブレーカ
適合法規	電気用品安全法 (特定電気用品)	
定 格	15A. 100V. AC	20A. 100V. AC
基準周囲温度	40℃	
極及び素子数	2極1素子 (2P1E)	
過電流遮断方式	熱動電磁式	
定格遮断容量	2.5kA	
コード保護電流	2.5kA	

【電流監視装置】 (電流監視装置付のものに限る)

使用電圧	100V. AC (電流値表示部は85V~125Vまで対応可)	
電源周波数	50 / 60Hz	
電流値表示	LEDによるデジタル表示 3桁LED方式	
精 度	±0.15%FS±6カウント...50A時	

この取扱説明書の内容は2012年9月現在のものです。

「いい仕事」にこだわる
明工グループ



(製造) 株式会社 明互社
 (販売) 明工商事株式会社
 〒176-0021 東京都練馬区貫井4-46-8
 TEL:03-3577-1155(代) FAX:03-3577-0455
<http://meiko-g.co.jp>

外観及び仕様は、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。
 また、ご不明な点がございましたら弊社にお問い合わせください。